取付マニュアル

JKS ZEUS - LOCK

※ 取付作業は専門の業者に依頼して下さい。 ※ 個人または専門の業者以外の取付による施工の不良はすべての保証が対象外となります。

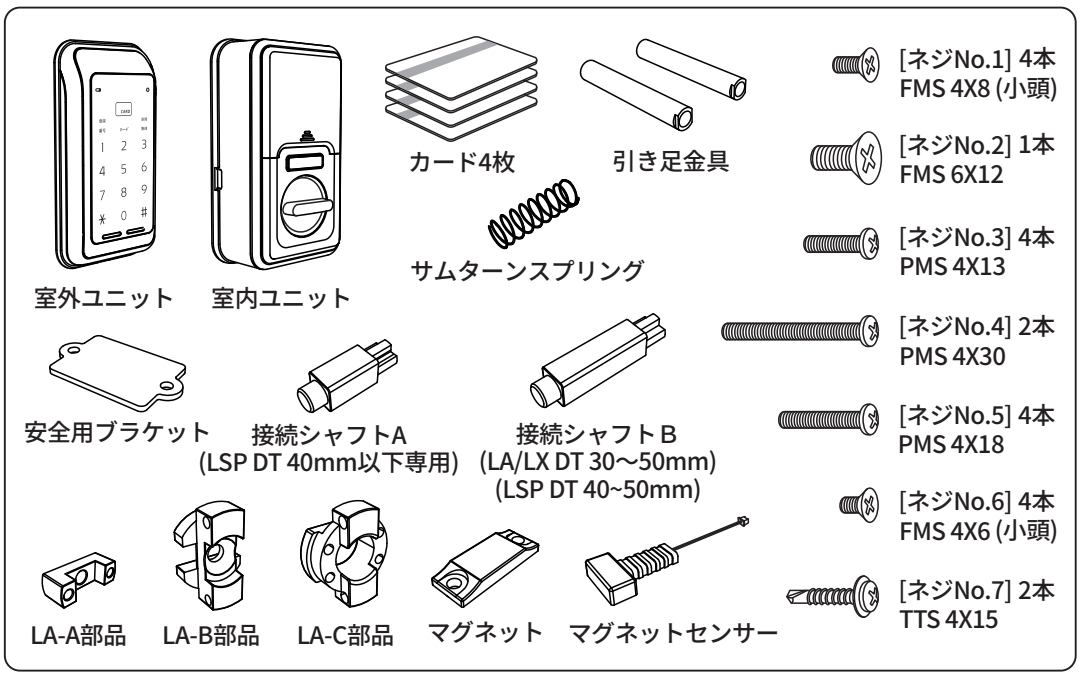
製品の取付前の確認事項

- 取付するドアの厚さ及び既存に取付されたキーシリンダー、錠前が製品と設置可能な仕様かどうか確認して下さい。
- 取付するドアが正常に作動するか確認して下さい。
- 錠前やレバーハンドルは、現在取り付けられている物を使用します。
- 取付するドアが正常に動作するかを確認してから、ドアが開いて いる状態で作業をして下さい。
- ドアが閉まった状態で、デッドボルトとラッチボルトが 滑らかに動くか確認して下さい。
- レバーハンドルが滑らかに動くか確認して下さい。
- 磨耗·揺れ·ガタツキ·変形·錆·腐食などを確認して下さい。

安全及び取付の注意事項

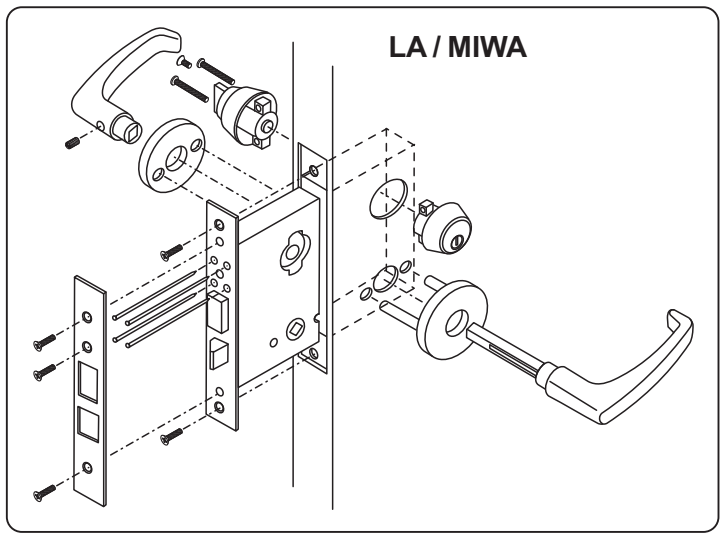
- 製品を使用者の任意で分解したり、修理しないで下さい。
- 製品に強い衝撃を与えないで下さい。
- 製品内部に異物や液体成分が入らないように、注意して下さい。
- 製品取付の際、必ずマニュアル手順に従って取付けて下さい。
- 取り外した部品は現状復帰などの対応時に必要な場合が有りますので大切に保管して下さい。
- すべての部品を取付けた後、正常に作動するかを確認して下さい。
- ねじは適正な力で締結して下さい。不良と故障の原因に なります。

製品構成品

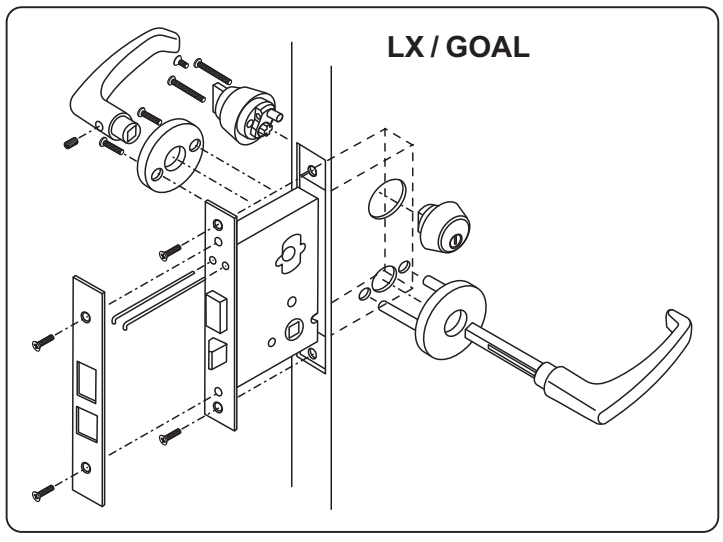


製品取付準備

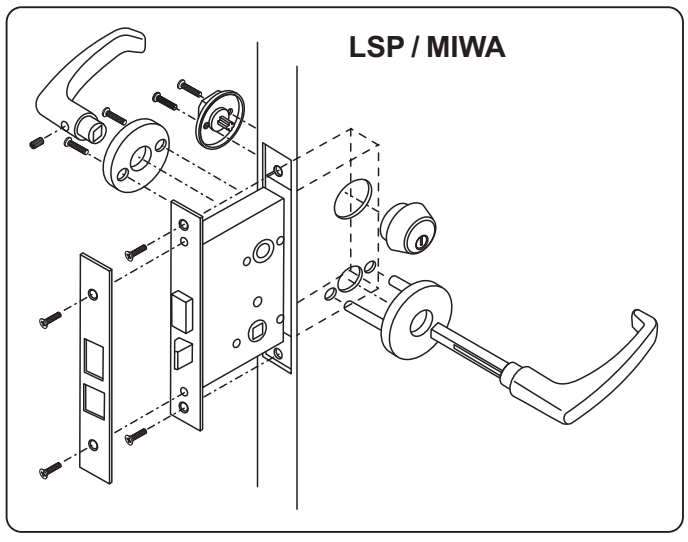
既に取付されている錠前タイプによって取付方法が違います。 製品取付の前に錠前タイプを確認した上で、各錠前別に下図を参考に部品を取り外して下さい。(下のイメージ参照)



- 錠前のフロントプレートを外し、シリンダー固定ピン２本とサムターン固定ピン２本を抜き取ります。



- 錠前のフロントプレートを外し、シリンダー固定ピン1本とサムターン固定ピン1本を抜き取り、サムターンの子ネジを外し、サムターン内部にあるネジ２本を抜き取ります。

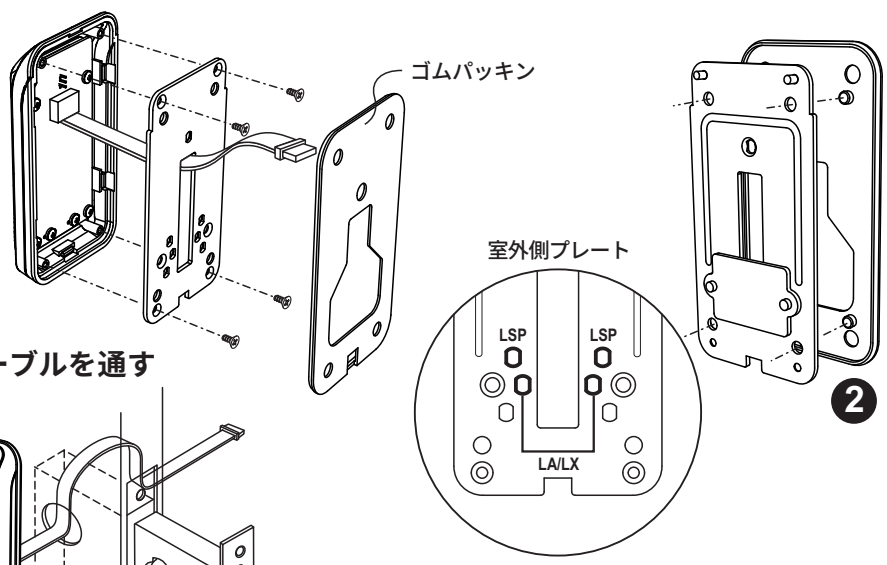


- サムターンのネジ２本を外すと取り外せます。(※サムターンのネジが隠されている場合もあり。)

- レバーハンドルの取り外し方：
  室内側レバーハンドル付け根にあるネジを外し、室内・室外ハンドルを抜き取ります。 室内のハンドル台座カバーを取り外して、ネジを外すと台座が外れます。

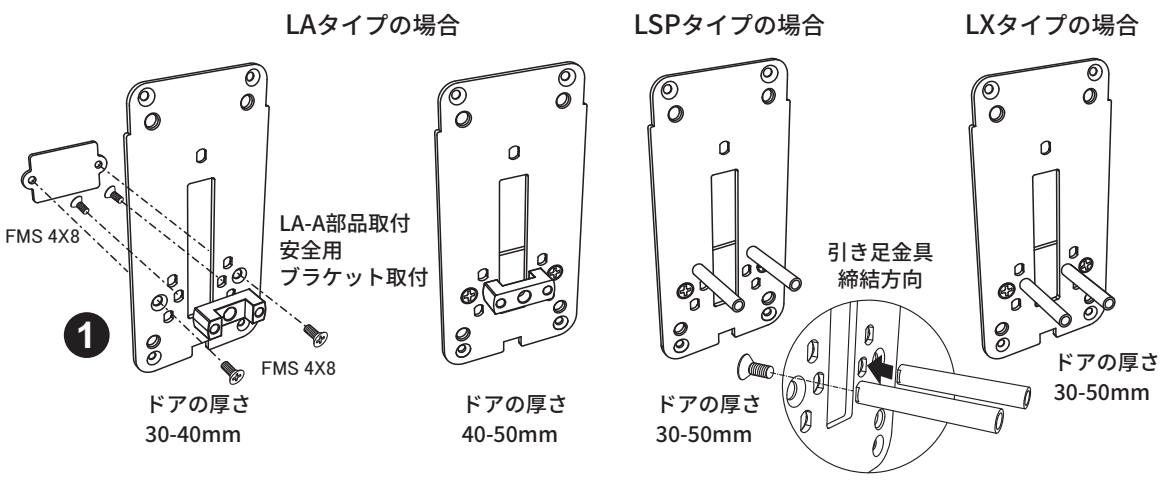
1. 室外ユニットの分解

- 室外のユニット裏板のネジ４本を外し、プレートを分離する。
- 分離させる際は、基盤とケーブルが損傷しないように慎重に作業して下さい。



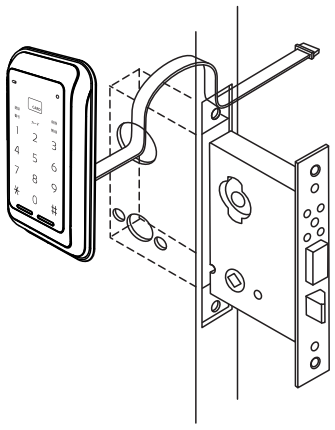
2. 錠前の種類及びドア厚さによる準備

※ 錠前の種類によって使用する穴位置が異なりますので、取付前に穴の位置を確認して下さい。



① 上のイメージを参照して錠前の種類に適合な部品を [ネジ No.1]２本を使って取付後安全用ブラケットを室外側プレートに[ネジNo.1]２本を使用して取付、室外側プレートを室外ユニットに 再び取付けて下さい。
② プレートにゴムパッキンを差し込んで下さい。

3. ケーブルを通す

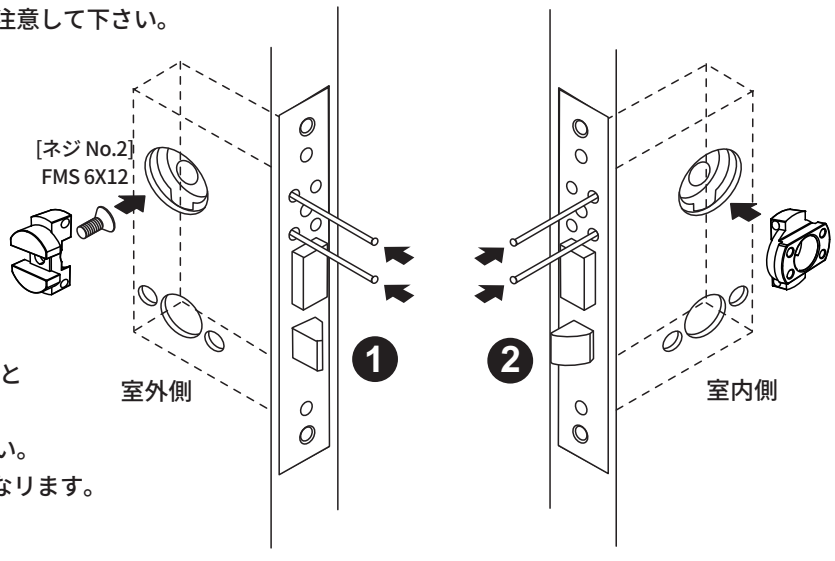


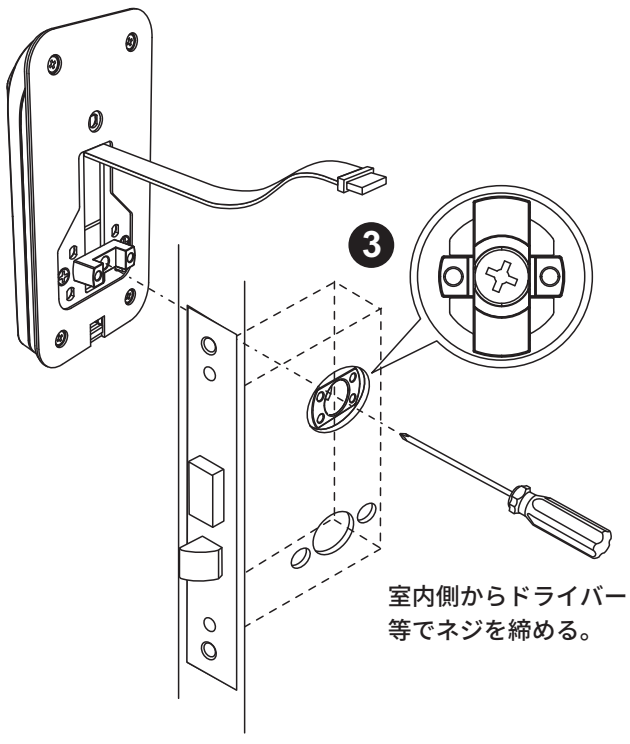
① 室外ユニットにあるケーブルをドアと錠前の隙間に通します。
② 錠前と扉内のスペースは非常に狭いのでケーブルを通過させる際は錠前を引き出し、錠前の上部側にケーブルを通してから錠前を元に戻して下さい。
※ ケーブルを無理に引っ張って取り付けると断線と損傷になって故障の原因になります。注意して下さい。

4. 室外ユニットの取付方法

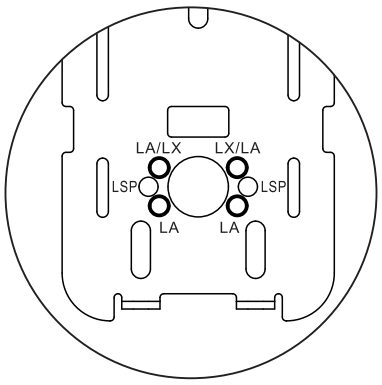
4-1. MIWA LOCK社の LAタイプの場合

① LA-B部品と [ネジ No.2]をイメージのように取付けてから室外側にシリンダー固定ピンを差し込み固定します。
② LA-C部品を室内側にサムターン固定ピンで固定します。
③ 室外側に取り付けたLA-A部品を錠前にセッティングされたLA-B部品に結合させ、室内側の穴から [ネジ No.2]を締めると室外ユニットが固定されます。
※ [ネジ No.2]扉の厚はみに応じて適正なカで締め付けて下さい。
強く締め付けすぎるとドアや室外ユニットの変形の原因になリます。

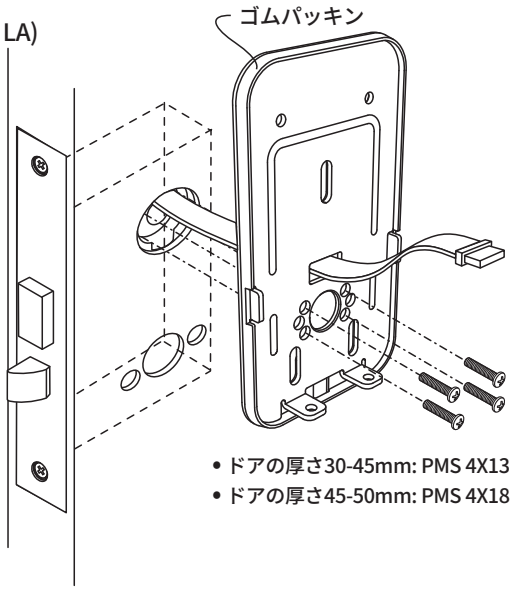




室内ユニットのブラケットプレート取付方法(例: LA)



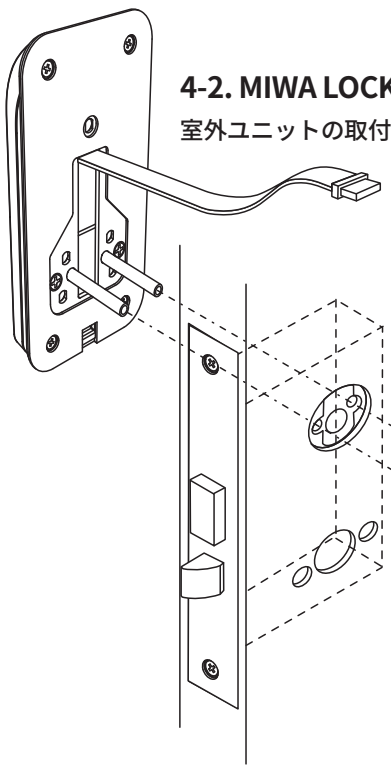
室内側プレート



- ドアの厚さ30-45mm: PMS 4X13
- ドアの厚さ45-50mm: PMS 4X18

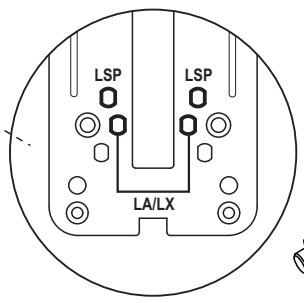
4-2. MIWA LOCK 社の LSP タイプ • GOAL社の LX タイプの場合

室外ユニットの取付方法(例: LX)

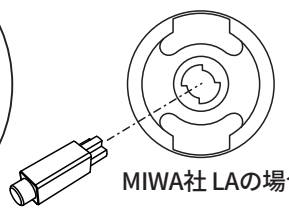


▪ 室外側に取付けた引き足金具を錠前のネジ用貫通穴から通して室外側ブラケットをドアに密着させます。

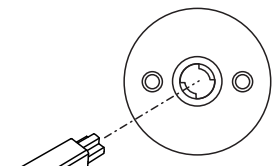
※ LSPタイプの場合も同じ方法で室外側ブラケットをドアに密着させます。



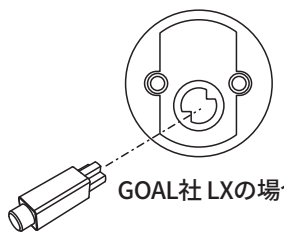
室外側プレート



MIWA社 LAの場合



MIWA社 LSPの場合



GOAL社 LXの場合

5. 接続シャフトと錠前の連結方法

▪ 錠前の穴の形状に合わせてシャフトを差し込みます。

※ 接続シャフトの方向にご注意下さい。
LA/LSPとLXは接続シャフト差込向きが９０°違います。

※ 接続シャフトがドアの内部に落ちないようにご注意下さい。

7. 室内ユニットの稼動部の作動方法の確認

※ デッドボルトが飛び出した状態で取り付けて下さい。

① 室内ユニットの稼動部の四角穴の内部にサムターンスプリングを差し込みます。
② 接続シャフトを室内側の稼動部に差込後、サムターンと連動させてスムースに動作するのを確認下さい。
③ サムターンを回し、デッドボルトを出した状態で室内ユニットを錠前に取り付けて下さい。
④ サムターンが正常的に動作しない場合、室内ユニットを取り外してサムターンを９０°回して再度取り付けて下さい。

8. 室内ユニットの取付方法

① 室内ユニットの電池カバーを開け、ブラケットと室内ユニットを [ネジ No.6]2本で固定します。
② 室内ユニットの下側も[ネジ No.6]2本で固定します。

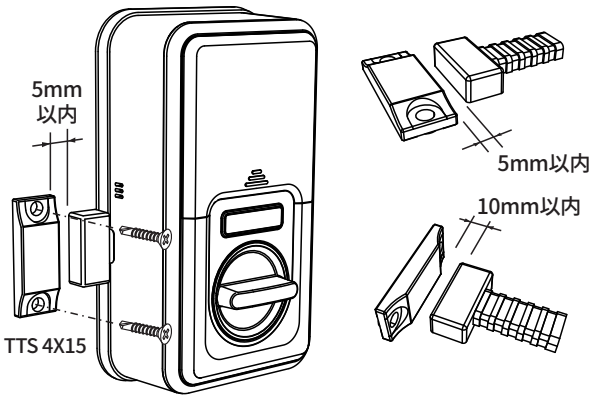
※ 室内ユニットにブラケットを取付ける際はセンサー取付位置(左・右選択)のゴムパッキン部をカッターナイフ等で切除して下さい。

※ 室内ユニットを取り付ける際はケーブルが圧迫されないようにご注意下さい。故障の原因になります。

9. マグネットとセンサーの取付方法

① マグネットの裏面の両面テープはマグネットとセンサーが平行になるように注意してドア枠に確実に固定します。
又、両面テープが剥がれやすい場所は、両面テープが剥がれないような取付けを行って下さい。
[ネジ No.7] ２本を使って固定も出来ます。

② マグネットとセンサーの間隔は設置方向によって、最大5㎜または10㎜以内に取り付けて下さい。



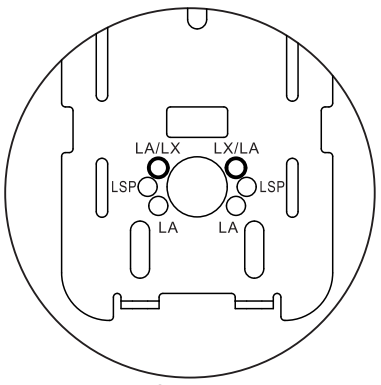
室内ユニットのブラケットプレート取付方法

① 室内側ブラケットにゴムパッキンを差し込んで下さい。
② 室内側ブラケットの四角い切り欠き穴からケーブルを通す。
③ 室内側ブラケットの LA-C固定用の４つ穴に[ネジNO.3]４本又は[ネジ No.5]４本で固定します。

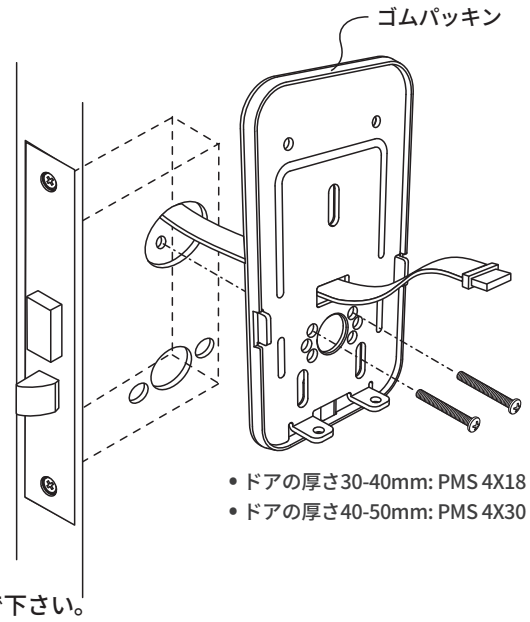
※ ネジを室内側ブラケットが曲がらないように締めて下さい。
無理に締めるとブラケットの変形が生じて異常動作が発生する恐れがあります。

※ ドア内部のケーブル処理は必ずネジと駆動部に巻かれないように注意して下さい。

室内ユニットのブラケットプレート取付方法(LX)



室内側プレート



- ドアの厚さ30-40mm: PMS 4X18
- ドアの厚さ40-50mm: PMS 4X30

① 室内側ブラケットにゴムパッキンを差し込んで下さい。
② 室内側ブラケットの四角い切り欠き穴からケーブルを通します。
③ 錠前に通した引き足金具に室内側ブラケットを密着させた後 [ネジ No.4] ２本又は[ネジ No.5] ２本使用して固定させます。

※ LX と LSPタイプは室内側ブラケットを使用する穴位置が違いますのでご注意下さい。

※ ネジを室内側ブラケットが曲がらないように締めて下さい。
無理に締めるとブラケットの変形が生じて異常動作が発生する恐れがあります。

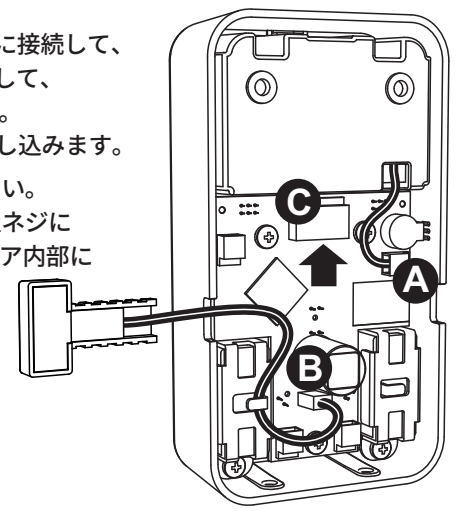
※ ドア内部のケーブル処理は必ずネジと駆動部に巻かれないように注意して下さい。

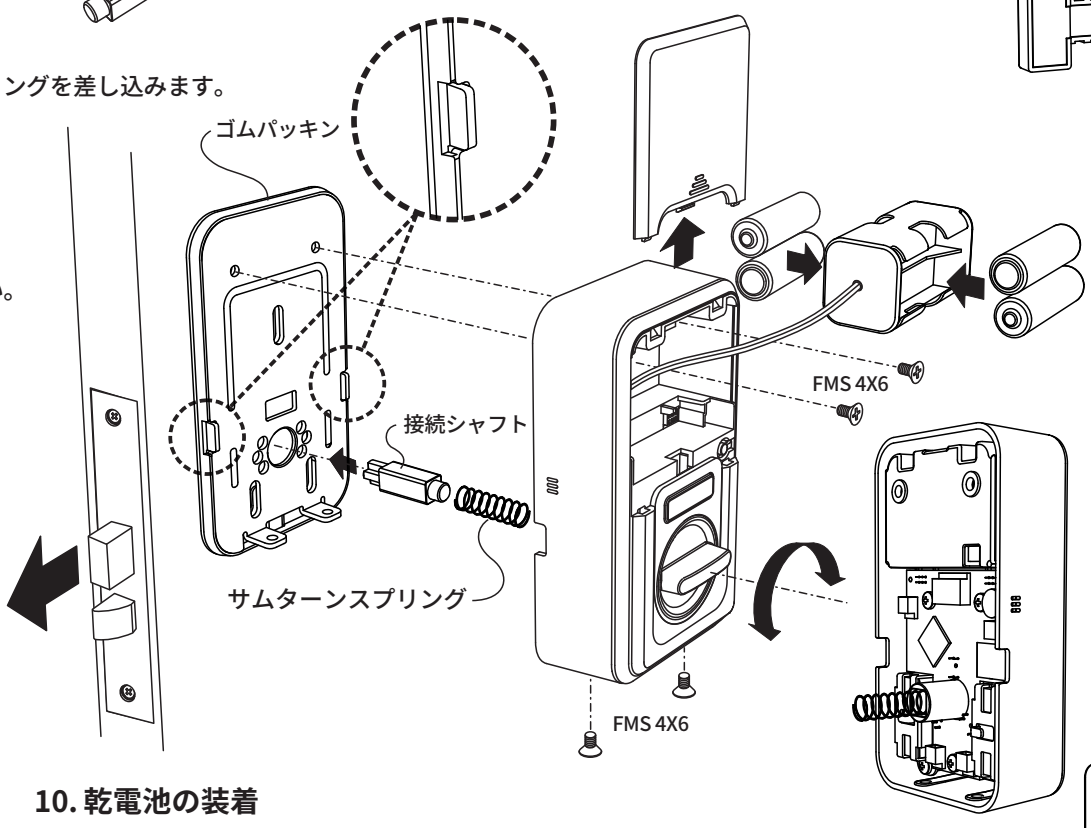
6. 室外側と室内側のケーブル接続方法

① 室内ユニットのバッテリーケーブルを[Ａ]コネクタに接続して、マグネットセンサーケーブルを[Ｂ]コネクタに接続して、モータブラケットにケーブルを掛け整理して下さい。
② 室外ユニットから出たケーブルを[Ｃ]コネクタに差し込みます。

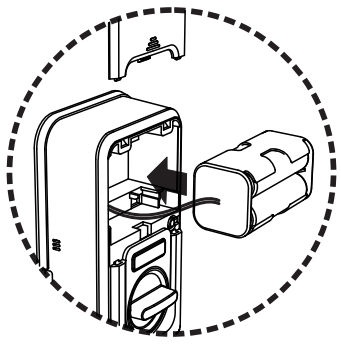
※ ケーブルはコネクタの奥まで確実に差し込んで下さい。

※ コネクタを接続した後余分なケーブル駆動部や設置ネジに巻き込まれて損傷しないよう室外側のケーブルはドア内部に押し込んで下さい。





※ 電池ボックスの挿入方向



※ 電池ボックスの挿入方向が違うとバッテリーカバーが閉まりません。

10. 乾電池の装着

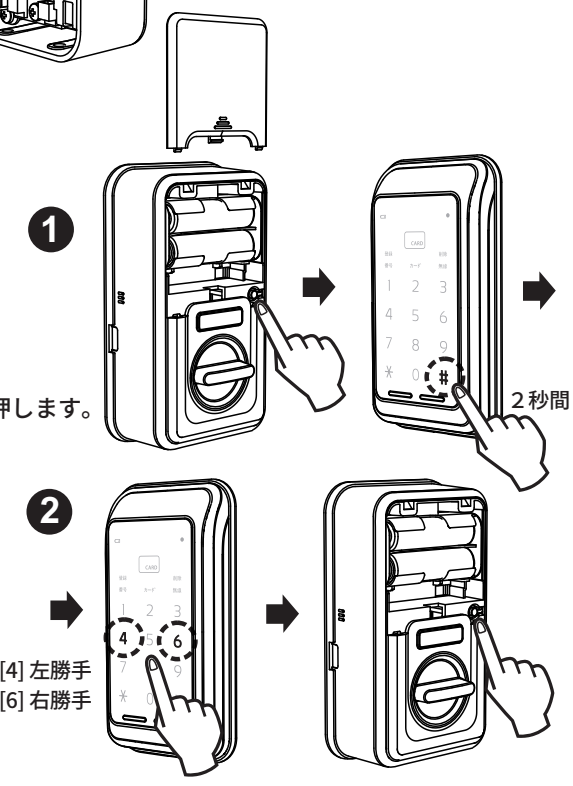
① 1.5Ｖ単３形アルカリ乾電池４本、
又は1.5Ｖ単３形リチウムイオン乾電池４本を装着すると 取付が完了します。
※充電式リチウムイオン乾電池は使用できません。
② 電池の＋・－方向を間違えて入れないで下さい。
③ 長時間使用しない場合は、電池を取り外して保管して下さい。

11. ドア開き勝手の設定方法

新規取付や引越しに 伴う移設によりドアの開き勝手が変更された際に設定します。
設定によって左勝手・右勝手に変更します。

① 室内ユニットの電池カバーを外した後 [登録]ボタンを押し、 [＃]ボタンを２秒間押します。
② タッチ番号の [4] 又は [6]番を押して [登録]ボタンを押すと設定されます。
[4]を押すと左勝手に設定
[6]を押すと右勝手に設定。

※ 錠前の仕様・取付状態により左右勝手の設定が逆になる場合が有ります。



12. レバーハンドルの取付

▪ 製品取付準備作業で、取外した反対手順で錠前フロントプレートやレバーハンドルを再度取付けて下さい。
▪ シリンダーやサムターンは必要有りませんが、必要な時使えるように大切に保管して下さい。